

○ 単元 「体によい手づくりおやつに挑戦しよう」(遷喬小学校)

1 単元指導計画

1-1 単元「体によい手づくりおやつに挑戦しよう」(全15時間)

担当者 白石周二 藤本康雄 高井仁子 長尾 剛

1-2 単元設定の理由

(1) 児童の実態

子ども達はどのようなおやつを、どれくらい口にしているのでしょうか。調査結果を集計し、実態を把握しなければならないが、かなりの甘いものを口にしているものと予想される。

おやつを食べる時も、「体によいもの」という基準で選ぶ子はほとんどいないであろう。おいしそうなもの、変わったもの、おもしろそうなもの・・・といった目で見ているようである。

このことが基本的な生活習慣の定着に影響を及ぼしていると考えられる子もいるはずだ。

どの子どもも健康で明るい生活をおくりたいと思っている。体によい食べ物は何か。どんなおやつが体によいのか。どんな食生活をしていけばよいのか。そのために自分にできることを考える指標を与えてやりたいと考えている。

(児童の食生活の実態把握については、事前にアンケート調査を行い、その結果を授業の中に活用する計画でいる)

(2) 教師の願い

この単元では、「おやつ」を中心にしながら、まず砂糖や塩・油脂などの摂取過多が体に与える影響を学習し、自分達の食生活に関心をもたせたい。後半では体によいおやつを調べ、実際に作る活動を展開し、これからの自分の食生活の改善点を考え、実践していくことができるようにさせたい。

本単元は本校の内容系列表でいえば「健康」3・4年生の「イ・健康で安全な生活をおくるために欠かせない基本的な生活習慣の大切さがわかり、自分の生活をよりよいものにしようとする」の具現化をめざしたものである。

食生活は家庭の方針に依る面が大である。子どもの考えがそのまま反映されるものではない。(そこまでは期待していないし、お願いもできない) 自分にできる範囲内で「これは我慢しておこう」「もうやめておこう」といった小さなブレーキがかけられる指標を与えることができればと考えている。

1-3 単元の目標

いろいろな食品の摂取過多が体に与える悪影響がわかり、健康でよりよい生活をおくっていくために、自分にできることを考え、実行しようとしていく。

1-4 単元の評価規準

○ 関心・意欲・態度

- ① 「食」に関心を持ち、意欲的に学習に取り組む。
- ② 自分の食生活を振り返り、体によい食品の摂取に心がけようとする。

○ 思考・判断

- ① いろいろなおやつや栄養の摂取と、体に与える影響について関連づけて考えることができる。
- ② 自分のめあてをはっきりともち、進んで調べることができる。
- ③ 学習した内容と自分の食生活を比較し、体によいおやつの取り方を考えていくことができる。

○ 技能・表現

- ① 調べたことをわかりやすくまとめることができる。
- ② 学習したこと・わかったことの伝え方を工夫する。

○ 知識・理解

- ① いろいろな食べ物の栄養や体へ与える影響がわかる。
- ② 体にとってよい食生活がわかる。

1-5 学習過程と評価計画

学 習 活 動	支 援	評 価 規 準				評 価 資 料
		関意態	思判	技表	知理	
1 おやつと体に与える影響について考える。(3) ①食生活アンケートの結果から、自分達の食生活の傾向を知る。砂糖のとり過ぎが体に与える影響を知る。	・事前にとったアンケートの集計結果を知らせ、興味関心を引く。 ・砂糖の取りすぎが与える影響を、科学的データや画像をもとに伝えていく。	①				ノート
②油脂のとり過ぎが体に与える影響を知る。	・子どものよく口にするおやつに油脂がたくさん含まれているものがある。 ・これが体に与える害について知らせ、おやつのとりに関心を向けさせる。		①		①	ノート
③体によいおやつの在り方を考える。	・今までの学習から、さらに勉強していきたい内容を出し合い、今後の学習計画を立てさせる。		③			ノート
2 体によいおやつの調べ方を考える。(1)	・予想される課題の中で、次のものを大きな柱にしていく。 どんなおやつが体によいのか。 体によいおやつを作ってみたい。 ・学習を進めていく方法を確認する。 人に聞く。(親・給食の先生など) 本を調べる。 など		②			ノート
3 体によいおやつを調べる。(6) ①おやつと栄養について学ぶ。	・給食の先生にお話を聞く場合は、子ども達に進行させていく。	①				ノート
②体によいおやつについて調べる。	・書籍で調べていく場合は、グループを編成し、共同で調べるようにさせる。 ・調べたことが記録として残るように、ノートの作り方を指導する。			①		ノート
③調べたことを発表しあう。	・調べたことを発表し、互いに評価しあう。			②	②	発表の様子
4 体によいおやつ作りに取り組む。(5) ①体によいおやつ作りの計画・準備をする。	・発表をもとにおやつ作り実習の内容を決め、計画を立てさせる。 ・子ども達の力で実習できそうかどうかを教師は判断する。 ・実習では安全面について		③			ノート

②実習をする。	<p>の注意をしっかりとしておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生なので、ボランティア協力の依頼も考慮しておく。 ・計画に沿って実習させていく。 	①	活動の様子
③試食とまとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の反省をし、おやつを中心とした食生活についての留意点等をまとめていく。 ・既習内容のテストを行い、理解度を見る。 ・実習から得た子どもの思いをくみとり、その後の組み立てを考えていく。 ・さらなる課題が出されれば、それを追究する 	②	① ノート テスト

1-6 評価資料 (略)

1-7 評価基準

学習活動	評価規準	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
				A (3)	B (2)	C (1)
1 おやつと体と与える影響について考える。 ① 食生活アンケートの結果から、自分の食生活の傾向を知ることが、砂糖のとり過ぎが体と与える影響を知る。	関心・意欲・態度①	自分の食生活に関心を持ち、話を熱心に聞いている。	ノート	自分達の食生活を振り返った感想を書いている。	学習内容の感想を書いている。	授業後の感想を書いていない。
② 油脂のとり過ぎが体と与える影響を知る。	思考・判断①	油脂の摂取過剰による害悪について考えられる。	ノート	害悪を複数考えて書いている。	害悪を1つ書いている。	害悪を書いていない。
③ 体によいおやつと在り方を考える。	知識・理解① 思考・判断③	害悪をふまえた上での反省や対策を感想に書くことができる。 今までの学習内容を振り返り、具体的な学習のめあてをもつことができる。	ノート	自分達の食生活を振り返り、油脂の害悪と対策をふまえた感想が書けている。 勉強したいめあてが2つ以上書いている。	油脂の害悪についての感想を書いている。	授業後の感想を書いていない。
2 学習の進め方を考える。	思考・判断②	学習を進めていく方法を考えることができる。	ノート	学習を進める方法を2つ以上書いている。	学習を進める方法を1つ書いている。	学習を進める方法を書いていない。
3 体によいおやつを調べる。 ① おやつと栄養について学ぶ。	関心・意欲・態度①	給食の先生の話を熱心に聞いている。	ノート	給食の先生の話と自分の食生活を振り返った感想を書いている。	給食の先生の話の内容を振り返って書いている。	授業の感想を書いていない。
② 体によいおやつについて調べる。	技能・表現①	調べたことを分かりやすくまとめることができる。	ノート	ポイントを押さえノートを分かりやすくまとめている。	調べたことをノートにまとめている。	ノートにまとめていない。
③ 調べたことを発表しあう。	技能・表現②	調べたことを工夫して分かりやすく伝えることができる。	発表	分かりやすくハキハキとしたプレゼンテーションしている。	調べたことを伝えている。	自分の考えを伝えていない。
	知識・理解②	学習内容を発表に生かすこと	発表	学習内容をしっかりとふまえて	学習内容にあった発表をして	学習内容にあった発表をし

	思考・判断③	とができる。	た発表している。	いる。	ていない。
4 体によりおやつ作りを取り組む。 ①体によりおやつ作りの計画・準備をする。	発表をもとにおやつ作り実習の内容を決め、計画を立てることができる。	ノート	グループの中心になって、意見を述べておやつづくりの計画を進んでいる。	友達と協力し合いながらおやつづくりの準備物を分担してそろえている。	おやつ作り計画の準備分担をしていない。
②実習をする。	関心・意欲・態度①	実習活動	グループの中心になって進んで調理実習を行っている。	人と相談したり指示されたりしながら、調理実習を行っている。	友達からの指示ばかりで、自分からは調理実習に取り組んでいない。
③試食とまとめを行う。	関心・意欲・態度②	ノート	今までの食生活を振り返り改善するポイントが2つ以上書いている。	自分の食生活を振り返り、改善ポイントが1つ書いている。	改善ポイントを書いていない。
	知識・理解①	テスト	90点以上	90点未満60点以上	60点未満

2 授業と評価の実践

2-1 指導と評価の一体化の実践

学習活動1 おやつと体に与える影響について考える

- ①食生活アンケートの結果から、自分達の食生活の傾向を知る。
砂糖のとり過ぎが体に与える影響を知る。

(1) 指導・学習の過程

おやつに関するアンケート調査を事前に実施した。子ども達が「どんなおやつをよく口にしているのか」集計結果を導入で提示した。上位を占めるのは甘いおやつ・清涼飲料水ばかりだ。子どもも妥当な結果のように受け止めていた。

次に正常な人骨の断面写真と骨そしょう化した断面写真を提示。「体にとって大切な骨がどうしてスカスカの状態になってしまったのでしょうか」と尋ねた。子どもは、食べ物や運動面に着目する子が多かった。

その後次のような発問を行った。

- ・カルシウムはどんな食べ物に多く含まれていますか。
- ・みんながよく口にするおやつには、角砂糖何個分の砂糖が入っているのだろうか。
- ・砂糖をとりすぎると、骨が弱くなるほかに体にどんなことが起こるのでしょうか。

話し合いの後、カルシウムは脳をコントロールする働きがあり、カルシウム不足になるとかんしゃくを起こしやすくなることを説明した。

「砂糖は体も心も狂わせる」というアメリカでの実話を語り、授業の感想を書かせた。

(2) 評価結果

自分の食生活に関心を持ち、話を熱心に聞けていたかどうか、ノートの感想から評価を行った。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・態度 ①	自分の食生活に関心を持ち、話を熱心に聞いている。	38人	43人	0人

(3) 指導の改善と支援

子ども達の大好きなおやつのことから入ったことで、関心も強く、興味をもって授業に取り組んでいた。授業後の感想にも、自分の生活を振り返る感想が多く見られた。

本時で注意しなければならないことは、「砂糖＝害」と思い込まないようにすることである。砂糖も大切な栄養素だ。調理にも欠かすことができない。よくないのは必要以上に摂取してしまう「過ぎ」である。このことを常に留意し、説明の言葉も考えて発したつもでいる。はじめは「えー」と驚く子もいたが、冷静に考え、判断していたように感じている。

今後の展開も、この点に配慮して授業を進めなければならない。

学習活動1 おやつと体に与える影響について考える
 ②油脂のとり過ぎが体に与える影響を知る。

(1) 指導・学習の過程

まず子どもに人気のあるポテトチップスを提示し、みんなで試食してみた。指先は油脂でぬるぬるとし、敷いていた紙には油分が染み込んでいる。

次に主なおやつに含まれる油脂の量を示した。1日の適切な摂取量は60gで、3度の食事が主となる。おやつでは10gまでと言われるが、ポテトチップス1袋に含まれる油脂は約32gもあり、子どもに衝撃を与えた。

「油脂をとりすぎると、どんなことになりますか」本時の主発問の一つである。子ども達の目は健康面に向いているので、「太る・成長が止まる・病気になる・骨が弱くなる・睡眠がとりにくくなる・虫歯になる・脳の働きが悪くなる」など、多様な考えが出された。

その後、一つの写真を提示した。何なんだろうと考える。それは血管に油脂が詰まった状態の写真だった。血管がどうなるかを考えると恐ろしい。その写真の血管は何17歳の少女のものである。どうしてこのようになったのかたずねると、油脂の採りすぎ、食生活の乱れに目を向けた発言が多かった。

最後にもう一つ参考になる写真を見せ、本時の感想を書かせた。

(2) 評価結果

油脂の摂取過剰による害悪について考えることができるか、また害悪を踏まえた上での反省や対策を感想に書くことができるかについて、ノートに書いたものから評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
思考・判断①	油脂の摂取過剰による害悪について考えることができる。	75人	4人	0人

知識・理解①	害悪をふまえた上での反省や対策を感想に書くことができる。	44人	35人	0人
--------	------------------------------	-----	-----	----

(3) 指導の改善と支援

本時の内容は自分の生活に直接関わっている内容なので、子どもの関心は健康面に向いている。油脂についての害悪も3年生には難しいとも思われたが、予想以上に様々な内容を書き込んでいた。視覚に訴える資料を準備したことが子どもの関心を引き付けたようである。

書いた感想を発表する時に、「油脂を採る=害」ととらえる子がいた。健康のために油脂は必要である。問題になるのは必要量以上の「とりすぎ」である。そのことを再度伝えておいた。

感想を書くときに書きにくい子への参考となるよう、学習内容がつかみやすい板書を心掛けた。しかし、それでも書きにくい子がいる。その時は、黒板を振り返りながら、「このことを書けばいいよ」とアドバイスをするようにした。

授業後の感想がどれくらい書けるかは、日々の授業の反映である。書いた感想の文を教師が読み上げたり、通信で紹介したりして、他の子の参考とさせている。またこのことが意欲へとつながっていくようである。

学習活動1 おやつと体に与える影響について考える
③体によいおやつの在り方を考える。

(1) 指導・学習の過程

前時（油脂について）の学習の感想を数名読ませ、学習内容を想起させた。そのあと、「これから勉強したいこと」をノートに書かせていった。めあて作りである。ここではなかなか書けない子も出てくるのでは予想していた。そこで「どんな内容でもいいです。こんなのもいいかな、と思うものでいいのです。一つ書いたら持っていらっしやい。」と指示した。どんな内容でも誉めて誉めてほめあげた。そうすることで次々と考えてノートに書いていった。教師はこの内容をチェックし板書させていった。

黒板に書かれたものには、おおよそ出してもらいたい内容が書かれていた。書かれためあてを読み上げ、共通のものとしていった。

(2) 評価結果

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1

思考・判断③	今までの学習内容を振り返り，具体的な学習のめあてをもつことができる。	76人	5人	0人
--------	------------------------------------	-----	----	----

(3) 指導の改善と実施

子どもが考えためあてをいくつか書き出してみる。

- ・健康に悪いものをもっと知ってなおしたい。
- ・健康な食べ物を知りたい。
- ・体によいおやつを作りたい。
- ・バランスが崩れたらどうなるのか知りたい。
- ・ほかのおやつにどれくらい砂糖や油脂が入っているのか知りたい。
- ・塩をとりすぎたらどうなるのか知りたい。
- ・病気の原因について知りたい。
- ・体の仕組みについて知りたい。 等

以上のような多くのめあてが結果として出された。

めあてを考えることはかなり難しいことである。そのためには例示することも大切である。「めあて」という言葉だけではどのようなものか理解できない子もいるはずだ。「例えば、このようなもの・・・」といったものでイメージを持たせた。そして、一つかけたら教師のところへ持ってこさせ、おいに誉めていった。いくつかを読み上げ、困っている子への参考とさせた。また、その場で黒板に書かせ、友だちがどんなことを考えているかがわかるようにしていった。結果として何も書けない子はいなかった。

最後に黒板に書かれためあてをすべて読み上げていった。個々の考えを共通のものにしていくためだ。次時に学習計画を立てる時のために大切な活動となる。

学習活動2 体によいおやつの調べ方を考える。

① 学習の進め方を考える。

(1) 指導・学習の過程

前時に出し合った学習のめあてを移動黒板に残しておいた。この中から、これから学習していくめあてを組み立てていくのが本時のねらいである。

出されためあてには、中心となりそうな大まかなめあてがあれば、具体的ではあるが言わば単発的なめあてもある。

まずは、これから進めていく上での大きなめあてを考えさせ、次のものに決まった。「健康を守っていくにはどうしたらよいか」

さらに、このめあてを具体化するためのものを2つ選んだ。

「健康にいいおやつを調べよう」「健康にいいおやつを作ってみよう」

次に「健康にいいおやつを調べよう」に対する調べ方をノートに書かせた。ノートに書いた調べ方を出し合い、取り組んでいく順番を整理した。

(2) 評価結果

学習を進めていく方法を考えることができるかどうか、ノートから評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
思考・判断②	学習を進めていく方法を考えることができる。	78人	3人	0人

(3) 指導の改善と実施

「健康にいいおやつを調べよう」というめあてを具体化するための調べ方をノートに書かせた。ほとんどの子が複数個書き込んでいた。出されたものは次のものである。

- ①本で調べる ②HPを調べる ③聞く(家の人・料理屋・給食の先生・近所の人) ④テレビを見る

これらの調べ方は調べ学習の基礎となる。2年生の時の生活科や社会科などと通じる内容なので子どもも捉えやすいようだった。「今までどんなことをしたか思い出してごらん」という指示も有効であったように感じた。

④の「テレビを見る」については多くの意見が出された。知っている料理番組を出し合ったところ、多くのものが次々と発表されていった。薄いものであるが内部情報が蓄積されていることがわかった。このことも授業に生かすことができそうに感じた。

学習活動3 体によいおやつを調べる

① おやつと栄養について学ぶ

(1) 指導・学習の過程

<第1時>

ここから本格的な調べ学習がスタートする。「調べなさい」といっても調べ方がわかっていないといけない。3年生なので調べ方のステップを一つ一つ踏みながら進めていく。以下に学習の手順を述べる。

- ① 調べることの課題を一文で書く。

- ② その課題について知っていることを簡条書きする。(板書させる)
- ③ 大切だと思うキーワードを5つ選ばせる。

まず①で方針を明確にする。全体の課題とすることで揺れをなくす。

次に②で子どもの内部情報を出させる。子どもは思った以上にいろいろなことを知っている場合が多い。ノートに書いたことを板書させ、情報を共有化する。

そして③で、出された情報の中からキーワードを選択させる。キーワードを選ばせることで、何を調べればよいのかが明確になってくるのだ。

この後、資料の読み方を指導した。図書室の資料を印刷し、全員に配布。次の指示を出した。

「資料を読んで、なるほど・そうか〜と思ったところは青線。これは大事だ・すごく大切だと思ったところは赤線を引きなさい。」

この方法を取り入れることで、資料を読むときの集中力が増している。

<第2・3時>

前時のめあてを確認し、図書室の資料を調べていく。冊数に限りがあるので班単位で調べさせるようにした。一人3枚までのコピーをとってあげてことを告げ、必要なページに枚数を書いた付箋紙をはるよう指示した。

子どもの選んだページのコピーをとり、次の時間に読んでいった。読み方は第1時で指導したとおり赤青鉛筆を入れながら読ませていった。

<第4時>

調べ学習の柱の一つ「給食の先生に話をきく」の準備をした。聞きたいこと・質問したいことをノートに書かせておいた。また、給食の先生へ依頼に行く人を決め、会の進行役なども決定した。

<第5・6時>

給食の先生のお話を聞く会をもった。内容については事前に打ち合わせしたとおり、健康な体であるために注意すること・バランスのよい食事をとること・体によいおやつについての3点を話していただいた。

お話の後、子どもからの質問を受け、答えていただいた。

(2) 評価結果

給食の先生の話をも熱心に聞いていたかどうか、授業後のノートをもとに評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・態度	給食の先生のお話を熱心に聞くことが	35人	47人	0人

①	できる。			
---	------	--	--	--

(3) 指導の改善と実施

授業後に感想・学んだことを書く作業については慣れてきている。書く事が苦手であた子も量が増えてきている。書くことによって考えが進んだり、深まったりしているようである。

聞いた話の内容をまとめることは比較的やりやすい。鉛筆が進まない子には、「どんな話を聞いたかな」「どんな話が心に残りましたか」と聞いてやり、話をしながら支援を行った。また、学んだことを羅列的に書き、自分の感想・思いをかけない子がいる。その子には、「それを聞いてどう思ったの」などと聞いてやり、自分の考えたことを言わせてからノートに書かせる手立てを加えていった。

次時には、何人かのノートを読んで聞かせてやっている。自分の考えをよく書いている文は他の子への参考になる。また、読まれることが意欲へとつながると考えてもいる。

<p>学習活動3 体によいおやつを調べる</p> <p>② 体によいおやつについて調べる</p>
--

(1) 指導・学習の過程

今まで学んできた学習内容「体によいおやつ・食べ物はどんなものか」をもとに、自分達のグループ作るものを決め、計画を立てていった。

まず、今までの学習を思い出し整理するために、どのようなおやつがよいのかポイントをノートに書かせた。その後、グループでメニューを相談させた。

ノートに書くものは、材料と作り方、それになぜそのおやつにしたのか、そのおやつのセールスポイントをたくさん上げるように指示した。

何にするかを決めるのに図書コーナーに行くグループがあれば、コンピュータールームでインターネットを利用するグループもある。グループの進行状況を見ながら相談にのっていった。

(2) 評価結果

グループで作るものを決め、調べた内容を分かりやすくまとめているか、ノートをもとに評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1

技能表現2	調べたことをわかりやすくまとめることができる。	66人	15人	0人
-------	-------------------------	-----	-----	----

(3) 指導の改善と実施

何をノートに書いていくか示しているのので、わかりやすいノートが作れていた。もっとも難しいのが、そのおやつになぜしたのか、そのおやつのセールスポイントを上げることであった。

グループを巡視しながら「どうしてそれを選んだの」と尋ねてまわった。「わかりません」と答える子には、「では作ることはできません」ときっぱりと言うようにした。すると、まわりの子が慌てて理由を答えたり、「これから相談する」と言ったりしていた。本単元の中心となるめあてを再確認しながら作業を進めていかせた。

ある程度厳しいハードルも大切である。そこをクリアすることが次の実習に活かされるはずだ。子どもの答えに対し、賞賛を与えたりアドバイスを出したりしていった。

<p>学習活動3 体によいおやつを調べる</p> <p>③ 調べたことを発表し合う</p>

(1) 指導・学習の過程

前時までに調べた内容をグループごとに、みんなの前で発表させていく。ただ単に聞くだけでは、互いの評価はできない。友達の発表を聞く観点として、次の3点を与えた。

- ・堂々と発表できているか
- ・内容がわかりやすいか
- ・発表の役割分担がうまくできているか

これは聞く観点であると同時に、発表側の観点としてもあてはまる。1グループごとに発表が終わるとノートに評価を書かせ、何名かの子に感想を言わせ、緊張感を保っていった。

(2) 評価結果

調べたことを工夫して分かりやすく伝えることができたか、学習内容をふまえた発表ができたかを、発表の様子から評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
技能・表現②	調べたことを工夫してわかりやすく伝	58人	23人	0人

	えることができる。			
知識・理解②	学習内容を発表に生かすことができる。	50人	31人	0人

(3) 指導の改善と実施

学習内容をふまえているかどうかは、「なぜそのメニューが体によいか」のアピール文で評価される。どのグループも1つは書くことができていたが、複数の妥当な考えを書いていたグループには「勉強したことをよく生かしている」と力強くほめた。

他のグループの発表を聞くことで、これまで学習したことを思い出し、食に対する意識を高めることができたと考える。

学習活動4 体によいおやつを作る

① 体によいおやつ作りの計画・準備をする

(1) 指導・学習の過程

これまでの学習をもとに、グループごとに体によいおやつを調べて、自分たちで作ることにした。子どもたちは図書ホールの本や家から持ってきた本やあらかじめパソコンで調べておいた資料等をもとに、メニューを決めていった。

メニューを決める段階では、「これは油が使われているからやめておこう」「これは砂糖が全然使われていないからいいぞ」などの意見が多く交わされていた。

また、メニューが決まり、材料の確認を行う段階でも「これでは砂糖が多すぎるからもう少しへらすことにしたよ」「体によい果物をもう少し入れたいな」等、これまで学習したことを積極的に生かそうとする姿が多く見られた。

最後に、材料の分担を決め、作り方の手順を各班ごとに確認した。子どもたちはいよいよ自分たちでおやつが作れるとあって、とても意欲的に話し合い活動を進めていた。

(2) 評価結果

これまで学習してきたことをもとに、体によいおやつを決めることができたかどうかを、「そのおやつを選んだ理由」としてノートに書かせ、それを評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
思考・判断③	これまで学習したことをもとに体に			

	よいおやつを決めることができる	66人	16人	0人
--	-----------------	-----	-----	----

(3) 指導の改善と実施

一人では選んだおやつがなぜ体によいかははっきりと理解できていない子どもも、班ごとに話し合いをする中でその理由がわかってきたようだった。

体によい理由をよりはっきりと意識させるために、教師が「なぜこのおやつが体によいか？」と質問したり、明確な考えが表示できなかった時には「この材料が〇〇だから体にいいんだよ」と確認したりするような声かけを行った。

また、自分たちで進んで砂糖をへらすことを考えたグループには「よく考えたね」「自分たちで考えてすごい」と力強くほめた。

<p>学習活動4 体によいおやつを作る</p> <p>② 体によいおやつの実習をする</p>
--

(1) 指導・学習の過程

前時の計画をもとにからだによいおやつ作りの実習を行った。まずはじめに、この実習のねらいを再確認した。実習というだけで気分が浮つきやすくなる。どうしてこれをやるのかの意識づけをしておいた。

作業に入る前に安全上の指示を強調しておいた。包丁を使用する場と時間などは限定して、必ず教師の前でやらせるようにした。また「先生を頼らず、自分たちで考えてやっていけるとすばらしいね」と言葉を添えておいた。これだけで教師は子どもの声に振り回されなくなり、各グループに目を配れるようになる。

作業に入ると各グループとも手際よく進んでいた。困っている時でもすぐには手を出さず、「どうするといいいかな」と問いかけてみた。「こうやってみる」と考えを出した子をしっかりと誉めていった。

進めていく中で、どうしても作業の軽重がでてくる。相談しながら協力しているグループを全体に紹介していった。

(2) 評価結果

友達と協力して調理実習を行うことができたかどうかを、実習後の自己評価カードから評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・態度 ②	友達と協力して調理実習を行うことができる	39人	42人	0人

(3) 指導の改善と実施

班で協力して手際よく作業を進めていた班をしっかりとほめた。そのことが全体を活発にしていた。グループによって作るものが違うので、教師の目も届きにくくなる。途中での指示もできにくい状態にある。もっと細かい作業計画の詰めをしておけばよかったと思う場面もあったのは確かだ。しかし、そのような場面があるからこそ、子ども達は自力で乗り切ろうとする逞しさを見せてくれたようにも思えた。

学習活動4 からだによいおやつを作る

③ 体によいおやつの試食と実習のまとめをする。

(1) 指導・学習の過程

作ったおやつを試食した後、次のような実習および学習のまとめを自己評価した。

- ①楽しく実習ができたか。
- ②班で協力して実習できたか。
- ③実習の準備や作業が責任をもってできたか。
- ④食事やおやつのとりかたに気をつけているか。
- ⑤自分の食生活をふり返って、改善していこうと思う点があるか。

(2) 評価結果

自分の食生活をふり返り、今後改善していこうと思う点をいくつ書けたかを評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・態度 ③	食生活をふり返り今後改善していきたい点を書くことができる。	31人	45人	6人

(3) 指導の改善と実施

現在、砂糖や油脂の取りすぎに気をつけているという子どもがクラスの半数を超えていることを挙手により確認し、すばらしいことだと力強くほめた。

また、それ以外の改善点を書いていた子どもに発表させたり、教師が読みあげたりすることにより、他の子どもに紹介してやることで考えるヒントとした。

2-2 自己学習力の向上に向けた工夫

(1) 授業後の感想が書ける

活動1の2時間目など、どの場面でも言えることであるが、書くことによって考えが深まる。まずは文が長くかけるようにしていく必要がある。たくさんかけていることを誉めていくことだ。その中でいろいろと考え、自分を振り返ったり、次を考えるようになる。

感想を書くときに書きにくい子への参考となるよう、学習内容がつかみやすい板書を心掛けた。しかし、それでも書きにくい子がいる。その時は、黒板を振り返りながら、「このことを書けばいいよ」とアドバイスをしてやった。

授業後の感想がどれくらい書けるかは、日々の授業の反映である。書いた感想の文を教師が読み上げたり、通信で紹介したりして、他の子の参考とさせている。またこのことが意欲へとつながっていくようである。

(2) 自分の生活を振り返った感想が書ける

すべての活動に共通することである。聞いた話の内容をまとめることは比較的やりやすい。鉛筆が進まない子には、「どんな話を聞いたかな」「どんな話が心に残りましたか」と聞いてやり、話をしながら支援を行った。また、学んだことを羅列的に書き、自分の感想・思いを書けない子がいる。その子には、「それを聞いてどう思ったの」などと聞いてやり、自分の考えたことを言わせてからノートに書かせる手立てを加えていった。

次時には、何人かのノートを読んで聞かせてやっている。自分の考えをよく書いている文は他の子への参考になる。また、読まれることが意欲へとつながると考えてもいる。

(3) 友だちの発表を評価する

活動3の③で、各グループの発表がどうなのか、観点を示して互いに評価させた。聞く側も観点があるからこそ、発表を数値で評価できるようになる。逆に発表する時の指標にもなる。このことから生まれる緊張感が大切である。

2-3 単元の総括的評価及び個人内評価の工夫

(1) 単元の総括的評価結果

本単元を学習して学習効果について「関心・意欲・態度」については学習活動1の①と学習活動3の①の総和で、「思考・表現」については学習活動1の②と学習活動4の①の総和で、「技能・表現」については学習活動3の②と③の総和で、「知識・理解」については学習活動1の②と学習活動3の③の総和で観点別の学習効果の検討を行った。学習効果の検討に使用しなかった評価規準は評価方法や評価基準が妥当でなかったと評価結果から判断したからである。

① 「関心・意欲・態度」について

観点（評価場面）	評価基準			合計
	3	2	1	
関心・意欲・態度① （学習活動1）	38人	43人	0人	81人
関心・意欲・態度② （学習活動3）	35人	47人	0人	82人
①+②	73人	90人	0人	163人

この結果からもわかるように①+②で「1」判定の子どもは0人であり、「2」判定の子どもが55%、「3」判定の子どもが45%であり、このことにより本単元は関心・意欲・態度について十分学習効果があったと判断できる。

② 「思考・判断」について

観点（評価場面）	評価基準			合計
	3	2	1	
思考・判断① （学習活動1）	75人	4人	0人	79人
思考・判断② （学習活動4）	66人	16人	0人	82人
①+②	141人	20人	0人	161人

この結果からわかるように①+②では「1」判定の子どもは0人で、「2」判定の子どもが13%、「3」判定の子どもは87%であった。特に①では「3」判定が95%と非常に高い数値を示したことから、学習効果があったと判断できる。

③ 「技能・判断」について

観点（評価場面）	評価基準			合計
	3	2	1	
技能・表現①				

(学習活動3)	35人	47人	0人	82人
技能・表現② (学習活動3)	66人	15人	0人	81人
①+②	101人	62人	0人	163人

この結果からもわかるように①+②では「2」判定の子どもが38%、「3」判定の子どもが62%で、「1」判定の子どもは一人もいなかった。①では「3」判定の子どもが全体の43%、「2」判定は57%で、すべての子どもがこれまで学習したことをノートにまとめることができた。学習した内容から大事なことを取り上げてわかりやすくまとめるという技術・技能は大変難しい。しかし、「3」判定43%という結果は、4月からこれまで社会や理科等でノートの見開き2ページに学習のまとめを書くという実践を積み重ねてきた成果だと考える。

④「知識・理解」について

観点(評価場面)	評価基準			合計
	3	2	1	
知識・理解① (学習活動1)	44人	35人	0人	79人
知識・理解② (学習活動3)	50人	31人	0人	81人
①+②	99人	66人	0人	160人

この結果からもわかるように①+②で「2」判定の子どもは38%、「3」判定の子どもは62%で「1」判定の子どもは1人もいなかった。学習内容をおおむね身につけることができたと判断できる。

(2) 単元における個人内評価結果

< A児について >

学習活動	1	1	3	3	3	4	評定
	①	②	①	②	③	①	
関心・意欲・態度	2		3				A

思考・表現		3				3	A
技能・表現				3	3		A
知識・理解		3			3		A

注：評定は、総括的評価結果に基づき、Aは80%以上、Bは60%以上、Cは59%以下であることを示している。

①縦断的評価結果

学習活動1を見ると9点満点の8点、学習活動3を見ると9点満点で最終評定は「A・A・A・A」となった。A児のように学習活動3から評価がよくなった子どもが他に6名おり、学習活動3の「体によいおやつを調べる」という活動は子どもにとって意欲をもって取り組める活動であったといえる。

②横断的評価結果

「関心・意欲・態度」を見てみると、最初はあまり関心が高くなかったが、活動を重ねるごとに評価結果がよくなっている。このことは、この単元がA児にとって学ぼうと意欲をもてる単元であったといえる。また、学校だけでなく家庭の働きかけもあり、健康な食事に対する意識が徐々に高まっていったものと考えられる。

「思考・判断」は単元を通じて評価がよい。学ぼうとする意欲が自分の食生活をふり返ったり、健康によい食べ物について深く考えたりすることにつながっているものと考えられる。学習したことを生かして、自分の食生活をふり返り、さらなる課題を解決しようとする姿勢もうかがえた。

「技能・表現」も単元を通じて評価がよい。総合的な学習の時間だけでなく、社会科や理科の学習において「調べたことをポイントをおさえてまとめる」活動を繰り返して行っているなのでその影響も大きいものと考えられる。

「知識・理解」も単元を通じて評価がよい。学習したことを着実に身につけることができたといえる。評定はすべてAで長期にわたった単元で意欲を持ち続け、健康的な食事の取り方や食材のもつ栄養分等の知識を十分につけることができた。

< B児について >

学習活動	1	1	3	3	3	4	評定
	①	②	①	②	③	①	
関心・意欲・態度	2		2				B

思考・表現		3				3	A
技能・表現				3	3		A
知識・理解		2			3		A

注：評定は、総括的評価結果に基づき、Aは80%以上、Bは60%以上、Cは59%以下であることを示している。

①縦断的評価結果

学習活動1では、砂糖の害悪について理解はできたが、自分自身の問題としての振り返りが十分でなかった。しかし、勉強したいめあてについてたくさん書くことができた。学習活動3では、給食の先生の話聞いて、自分の食生活を振り返るまでには至らなかったが、話の内容をしっかりと理解することができた。また、体にいいおやつについて調べる活動では、分かりやすくポイントを押さえてノートにまとめていた。グループで調べたことを大きな声でハキハキと説明することができた。学習活動4では、グループの中心になって、調理をがんばることができた。学習活動が進むにつれてより活発に学習に参加することができた。

全体の傾向としてはA児と同じ傾向で、学習活動3より意欲をもって取り組めるようになってきたことが、この結果からわかる。

②横断的評価結果

「関心・意欲・態度」を見てみると、評価の結果はあまり変化していない。自分自身を振り返って感想を書くのは得意でなかったかもしれないが、調理実習や調べ活動では生き生きとできていた。この単元がB児にとって学ぼうと意欲が継続できた単元であったといえる。

「思考・判断」は単元を通じて評価がよい。自分でめあてを見つけたり、学習方法を考えたりする活動は、B児に限らず全体的に結果が良かった。「食についてもっと知りたい」という意欲と単元に対する期待感が良い結果をもたらしたと考えられる。

「技能・表現」も単元を通じて評価がよい。社会科の新聞作りや国語の授業でした討論などの影響も大きいと考えられる。友達と協力して本やパソコンを使って調べてるうちに、お互いに情報交換がスムーズに行われていた。このことも良い結果につながっている。

「知識・理解」も単元の活動を通して評価がよくなってきている。自分の食生活に役立てたいという気もちがそのまま結果に表れているものと考えられる。

評定はほとんどAで長期にわたった単元で意欲を持ち続け、健康的な食事の取り方や食材のもつ栄養分等の知識を十分につけることができた。